

11月の銅スクラップレポート及び12月の見通し

橋本金属×アルミ 橋本健一郎氏

予測レンジは、LMEセツルが7700—8300ドル、建値が670—720円

■概況:前半は11月の米消費者態度が07年7月以来の高水準になるなど好材料もあったが、オバマ大統領再選により大型減税終了と債務収縮期限が同時に来る「財政の崖」問題における上院での民主、共和のねじれを嫌気し暴落、7635(セツル)と約180ドル下落しての前半締めとなった。

後半は欧州が7—9月期に過去4年で2度目となるリセッション入りしてた事が判明するもIMF(国債通貨基金)と欧銀の間でギリシャ支援再開について合意されたことや、独

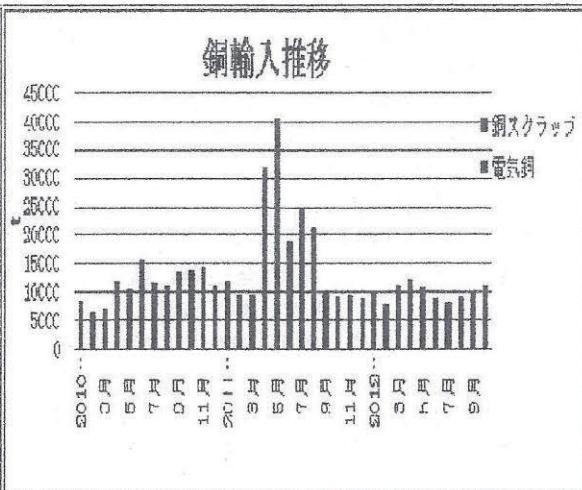
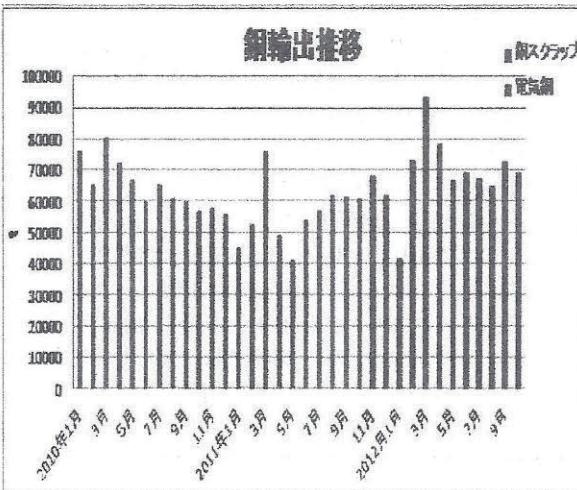
IFO企業景況感指数が予想外に良かったこと、さらに中国HSBC PMI指数が50.4と1年1カ月ぶりに景気判断となる50を上回った事、当局が490億元の鉄道事業を承認したことを好感し急騰12月3日現在、前半締めから314ドル上昇の7949ドル 建値70万円のスタートとなった。

■前月の経済指標:日本自動車工業会によると自動車生産台数は前月比-2.3%の79万2166台であった。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前月比+8.1%の24万3974台(前年比-3.3%)。また国土交通省によると新設

上川満氏(三井金属株式会社取締役兼常務執行役員金属・資源事業本部長)12月4日(火)に肺炎の為、逝去。享年59歳。通夜は12月7日(金)午後6時から午後7時、告別式は12月8日(土)午前11時から午後1時、場所はともに中野・宝仙寺(東京都中野区中央2-33-3)にて葬家及び三井金属による合同葬として執り行う。喪主は妻の洋子氏、葬儀委員長は同社代表取締役社長の仙田貞雄氏。なお、問合せは同社総務部広報室(TEL:03-5437-8028)、又は金属・資源事業本部管理部(03-5437-8060)まで。

輸出	8月	9月	10月
電気銅	4万2724t	4万5075t	3万3310t
前月比	+6.9%	+5.5%	-26.1%
スクラップ	2万2322t	2万7832t	3万5872t
前月比	-18%	+24.7%	+28.9%

	8月	9月	10月
生産台数	73万5999台	77万3990台	79万2166台
前月比	-20.2%	+5.2%	-2.3%
昨年対比	+45%	-12.4%	-12.4%
	9月	10月	11月
販売台数	28万8488台	22万5543台	24万3974台
前月比	+24.1%	-21.8%	+8.1%
昨年対比	-8.1%	-9%	-33%
	8月	9月	10月
新設住宅戸数	7万7500戸	7万4176戸	8万4251戸
季節調整 前月比	+2.1%	+15.3%	+13%
昨年対比	-55%	-2.5%	+25.2%
	8月	9月	10月
輸入			
電気銅	2453t	2356t	3096t
前月比	+16.5%	-4%	+31.5%
スクラップ	6768t	7445t	8146t
前月比	+15.7%	-9.8%	+9.5%



住宅着工戸数は前月比(季節調整済み) +13% (昨年比 +25.2%) の84251戸であった。

貿易関連指標では財務省貿易統計によると、輸出は前月比で電気銅が -26.1% の3万3310t、スクラップが +28.9% の3万5872t。輸入は電気銅が前月比 +31.5% の3096t、スクラップが +9.5% の8146t。

また国内指標では、日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば前月比 +3.4% の6万5830t(昨年対比 +0.5%)。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によれば前月比 +4% の6万t(昨年対比 -0.8%)であった。

■見通し: 11月は自動車生産はさらに二桁悪化、販売の方も -3.3%とまだ減少基調(前年比)住宅関連は先月の悪化から一転、前月比(季節調整済み) +15.3% (昨年比 +25.2%) の84251戸 復興需要も伴って大幅増。欧州懸念はIMF国債通貨基金と欧州銀行がギリシャ救済に関して大幅譲渡、無事合意に至ったことから懸念は一旦後退。ただゼネストなどの不確定要因が多く予断は禁物。

自動車生産は前年比 -2.3% の79万2166台と前月に続き、前年割れ、まだまだ下げ止まる気配はない。また国内自動車販売台数が24万3974台とこちらも前年比 -3.3%と悪化。自動車関連が少ない伸銅品生産量は前月比 +3.4% の6万5830tの昨年対比 (0.5%)と1カ月ぶりに下げ止まり。住宅市場の持ち直しが原因か。

銅電線出荷量は、前月比 +4% の6万t、昨年対比 -0.8% と2カ月連続減少へ。自動

販売の悪化を受けて前月につづいて悪化へ。新設住宅着工数は季節調整前月比 +13% の8万4251戸、前年比は +25.2%と前月に続き大幅増加となった。輸出に関しては、電気銅輸出が前月比 -26.1% の3万3310tと大幅減。銅スクラップは +29% の3万5872t どちらも大幅増加した。輸入は電気銅が +31.5% の3098t、スクラップは +9.5% の8146t。

銅需給に関しては、今月も引き続き自動車関連の需要が悪化、自動車販売台数も -3.3%と減少、生産台数でも -12.4%急減している。まだ悪化の可能性がある。ただ住宅着工数のみが前月比(季節調整済み) +13% (昨年比 -25.2%) の8万4251戸と大幅増で今後に期待。その他の家電業界も引き続き悪化しているが下げ止まりの兆候か、伸銅品生産に関しては17カ月ぶりプラスの +0.5% (前年比)。銅需要に関しては欧州債務懸念の後退、中国の490億元の鉄道インフラ投資、米不動産市況の回復など一時よりは明るい材料が多いものの 全てにおいて計画段階であり まだまだ不確定要因が多いことから実需はなく年内は買い気薄。

銅価格に関しては、「米財政の崖問題」が主なテーマであるが問題が解決したとしても、すでに織り込み済みで、新規プラス材料は望めず、上値は直近高値の8300ドルが限界。下値は現在8000ドル近辺を推移している事から欧州のゴタゴタが加われば更なる下振れが考えられ7700ドルも視野にはいるのでは。銅建値に関しては67-72万円程度と予測している。

銅くず

輸出向銅くず、買値値上がりか 荷動きはあれば買う状態で変わらず

関西の輸出向け銅スクラップ市況は、込黄銅と雑線の買値はともに「買値は上がりそうだ」(ある扱い筋)という。

足元の輸出業者の買値は、込黄銅が38万円どころが中心で前回(11月30日(金)付3面記事参照)の安値は消えた模様。雑線(43%程度)が23万~23万5,000円どころが中心だが、一部では先高を見越して24万円の高値も出ている。

ただ足元の荷動きは、あれば買う、との状態で変化はなく、現状は中国の経済指標改善やそれに伴う景気の底入れ観測などによる先高感での上げ気配となったようだ。

なお、前記の価格に関して、高値を得ようとすれば鉄やプラスチックなどの不純物をしっかりと取り除いたり、荷姿を整えておく必要がある。